年度末報告書（資金分配団体）

● 提　出　日　：　2022 年 7 月 5 日
● 事　業　名　：　外国ルーツ青少年未来創造事業－外国にルーツをもつ子供・若者の社会的包摂のための社会基盤作り」
● 資金分配団体　：　（公財）日本国際交流センター
● 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無　：　þ有　☐無

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
１．外国ルーツ青少年が適切な学校教育を受けられるような準備が整う。	①外国ルーツ青少年を対象とした日本語教室（オンライン・オフライン）の開催数・参加者数 ②外国ルーツ青少年を対象とした学習支援教室（オンライン・オフライン）の開催数・参加者数 ③就学・進学などにかかわる相談会の開催数・参加者数	①100 回/年、延べ 400 名/年 ②900 回/年、延べ 35,000 名/年 ③2 回/年、120 名/年	2023/3/1	①199 回、延べ 2,253 名 ②904 回、延べ 11,806 名 ③対象外：昨年に続き、多言語（英語、日本語、ウルドゥー語、ポルトガル語、中国語）による動画の作成・公開	4（計画通り進んでいる指標とそうでない視標があるため）
２．外国ルーツ青少年が適切なキャリア・職業教育が	①進路、キャリアにかかわる指導やサポート（説明会・相談会・イベ	①15 回以上、延べ 550 名以上	2023/3/1	①52 回、延べ 270 名 ②291 回、延べ 10,065	3

受けられるような準備が整う	ント等）の開催数・参加者数 ②オンライン及びオフラインによる資格・キャリア講座の開催数・参加者数 ③外国ルーツ青少年を対象としたキャリア体験（インターンシップ、職場体験等）の実施回数・参加者数	②1,000 回以上、延べ 20,000 名以上 ③4 回以上、延べ 50 名以上		名 ③2 回、延べ 7 人	
３．外国ルーツ青少年の社会参加・エンパワーメントを促進する準備が整う	①クラブ活動、交流活動、講座等に参加した外国ルーツ青少年の数 ②オフライン・オンラインによる相談・カウンセリングを受けた外国ルーツ青少年の数、件数 ③情報発信数（記事・コンテンツ数等）及び会員登録者数 ④外国ルーツ青少年を新たに支援するネットワーク・地域拠点への参加団体数 ⑤教育関係者・公益活動団体関係者、ボランティア等を対象とした当該プログラム等の開催数・参加者数 ⑥アイデンティティー形成（母語・	①延べ 1,100 名以上 ②延 1,000 名以上、700 回以上 ③300 以上、800 名以上 ④35 団体以上 ⑤7 5 回以上、延べ 800 名以上 ⑥350 回以上、延べ 7,000 名以上 ⑦500 冊以上、25 回以上、11,000 名以上	2023/3/1	①延べ 628 名 ②169 回、延べ 177 名 ③174 件、280 名 ④69 団体 ⑤4,525 回、1,387 名 ⑥185 回、延べ 446 名 ⑦40 冊、21 回、1,037 名	４（計画通り進んでいる指標とそうでない視標があるため）

	母文化教育）にかかわる教室やイベント等の開催数、参加者数 ⑦地域社会を対象とした成果発信・イベントの回数（提言・成果等の配布数、イベント・シンポジウムの開催数、参加者数）				

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊
４．実行団体における組織運用の改善の機会が増える	①実行団体や関係支援団体によるコミュニケーションや情報・課題共有のための意見交換会・会議の開催数、参加者数 ②組織基盤強化にかかわる研修会やワークショップ等の開催数、参加者数	①4 回以上/年、25 名以上/1 回 ②1 回以上/年、30 名以上/1 回	2023/3/1	①39 回、延べ 402 名 ②2 回、72 人	1
５．外国ルーツ青少年の現状や法制度・政策の必要性について知る機会が増える	①ステークホルダーとの協議や意見交換会の開催数 ②メディア向けの情報提供（勉強会や資料提供など）の数 ③外国ルーツ青少年にかかわる調	①10 以上/年 ②40 回以上/年 ③8 回以上 ④3 回以上、500 名以上	2023/3/1	①53 回 ②42 回 ③1 回 ④5 回、延べ約 349 名	４（計画通り進んでいる

	査研究の発信（報告書出版、報告会、関連記事掲載、シンポジウム等） ④外国ルーツ青少年にかかわる啓発活動（提言・調査、シンポジウム、イベント等）の開催数、参加者数				標そでい標あた指とうな視がるめ）

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 □変更なし　þ短期アウトカムの内容　□短期アウトカムの表現　　þ短期アウトカムの指標　þアウトカムの目標値
3.非資金的支援の活動に関する報告
アウトプット４「実行団体における組織運用の改善の機会が増える」については、実行団体や関係者との意見交換、情報共有等の機会と作るとともに、住友商事株式会社 100SEED との連携事業を計画通り運営してきたことで、目標値を上回る状況となっている。まず、2021 年度は、実行団体が組織・事業運用における課題、ノウハウ等の共有や、情報収集・共有等を目的に実行団体や関係者を中心としたネットワーク会議（2021 年９月８日、2022 年２月３日）を①行政との連携・協働、②これまでの事業・組織運営を振り返りとリソースの獲得・配置・活用をテーマに実施した。とりわけ、行政との連携・協働では、「各地の現場で活動している団体の声を直接まとまった形で行政の方たちに伝えられたことは意義が大きかった」、「行政との連携に関する情報や、各団体の事業内容・悩みを共有でき、今後の事業発展の

良いヒントをたくさん得た」などすべての実行団体が満足したと評価した。また、これまでの事業・組織運営の振り返りを中心とした会議では、「他団体の成果、情報共有から今後の活動に参考となり、学びの機会にもなった」、「各団体の取り組み内容とその成果、地域による課題の違い、共通する課題等を知ることができ、また他団体との連携の可能性も見え、得るものの多い会議だった」など十石団体同士のつながりを深める機会となった。一方、アンケートなどを通じて課題の共有を超えた解決策の共有、また実行団体から各団体の組織基盤強化に深くかかわりを持つ広報と資金調達についてのニーズが高いことから、最終年度におけるネットワーク会議の運営を改善していく。また、住友商事株式会社との連携においては、共同事業の目的である実行団体の活動サポート及び組織運営改善と、住友商事役職員の社会課題への理解促進と課題への参画を円滑に行うために、活動のキックオフ、3 者面談・ヒアリングなどの活動中の伴走支援、ニーズと課題の把握、相互に対する円滑なコミュニケーションや活動を通した成果（物）に対する満足度を高めるために意見交換の場を設定している。連携の初期においては、2021 年度には連携事業開始後、初めての引継ぎがあったり、新たに受入れを開始した実行団体があったりしたため、支援先団体の受け入れにおけるキャパシティとそれに見合う人員の配置・マッチング等に試行錯誤があったが、活動終了時のアンケート調査の結果から、課題に対する改善が図られていることが確認できた。

アウトプット 5「外国ルーツ青少年の現状や法制度・政策の必要性について知る機会が増える」については、行政、企業、学界、NPO/NGO など様々な関連ステークホルダーとの意見交換を行っており、目標値を大きく上回っている。特に、実行団体と企業において人材育成・就業促進支援を視野に入れた具体的な連携の動きを作り出すために実行団体と企業との連携を図るための事業紹介、ブレーンストーミング等の設定を行い、1 つの実行団体で企業と具体的な連携企画に向けて議論が進められている。また、外国ルーツ青少年にかかわる課題、人材としての可能性などについて企業・業界の理解を深めるために、在留外国人が多く働く生産・製造、流通、サービス関連事業を行う企業及び業界団体と、消費者団体、NPO などにより構成される国民生活産業・消費者団体連合会（生団連）との連携により、「外国ルーツ青少年未来づくり検討会」を開始した。一方、外国ルーツ青少年にかかわる調査研究の発信や啓発活動においては目標値より下回っているものの、自治体調査の概要版の公開、外国ルーツ青少年当事者調査の設計等が進められており、2022 年度において事業としての成果発信を積極的に行っていく予定であるため、目標値は概ね達成の見込みである。

6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

・資金分配団体及び実行団体においてオンラインで実施可能なプログラムや面談・打合せはオンラインに切り替え、計画通りに実施できるように対応した。
・対面での開催が効果的な活動については、オンラインに切り替えるのではなく、開催場所、参加人数等を変更することで対応した。
・実行団体において、自宅にＩＴ環境や勉強する環境が整っていない受講者のためには対面式学習支援を継続実施し、マスクの着用、アクリルパネルの設置、体温計、消毒などを徹底し、飛沫・接触感染予防を図った。

① 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
☑ 自団体のウェブサイトで表示している　☑ 広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　ｂイベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） • 2021 年 7 月 23 日　公明新聞「外国人材の活躍へ　方針を示す法整備を　党対策本部で識者」　毛受のコメントが掲載 • 2021 年 8 月 4 日　公明新聞「外国人材の受入れ　どう進めるか　民間有識者会議の提言から」　毛受のコメントが掲載 • 2021 年 9 月 8 日　読売新聞「人口政策なしに日本の未来なし―コロナ後に日本が「選ばれる国」になるために」外国人受入れについてオープンな議論を行う必要性、取り組むべき課題について • 2022 年 3 月 14 日　朝日新聞 Digital「姉妹都市の「草の根交流」、今こそ　ウクライナの「断絶要請」に思う」　毛受のインタビュー内容が掲載 2.広報制作物等 なし

3.報告書等

- 2022 年 2 月 16 日 JCIE の HP にて公開　「自治体における外国人住民関連施策に関するアンケート調査」（概要版）

3. イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

- 住友商事（株）の社員参加型の社会貢献活動プログラム「100SEED」との連携事業
  「100SEED 多文化共生ランチウェビナー（2）：外国にルーツを持つ青少年の現状と課題」（2021 年 9 月 2 日）
  「100SEED 多文化共生ウェビナー：これからの日本社会と『やさしい日本語』」（2021 年 8 月 26 日）
  「100SEED 多文化共生ウェビナー：『ともに生きる』とは―私たちが気づいていない『心の壁』について考える―」（2022 年 3 月 3 日）

④規程類の整備に関する報告

1. 規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。
☑ 全て公開した　☐一部未公開　☐未公開 →「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：
2. 変更があった規程類に関して JANPIA に報告しましたか。
☐はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由： 変更なし

⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

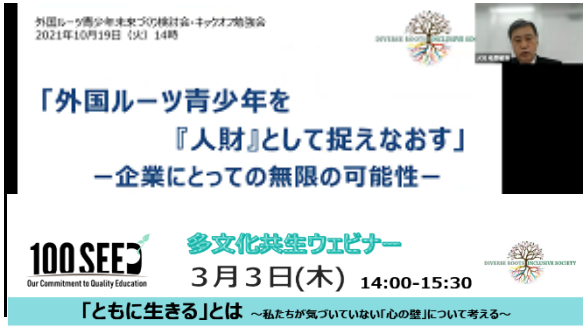
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。
☑ はい　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
2. 内部通報制度は整備されていますか。

þ はい　　☐いいえ →「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：þ 内部に窓口を設置　　☐外部に窓口を設置　　☐ JANPIA の窓口を利用
3.　利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
☑ はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
4.　関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
☑ はい　　☐いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由：
5.　コンプライアンス委員会は定期的に開催されていますか。
☐はい　　☑ いいえ →「いいえ」を選択した場合の理由： コンプライアンス委員会そのものは開催されていないが、執行会議を毎月実施しており、その際コンプライアンスにおいて問題が生じていないかどうかは確認をおこなっている。これまでそうした事実は発生しておらず、コンプライアンス委員会を開催する必要性に至っていないと認識している。
6.　報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。（実施済みの場合含む）
☐内部監査を実施　　☑ 外部監査を実施　　☐実施する予定がない →「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

第 5 回ネットワーク会議（2022 年 2 月 3 日）



国民生活産業・消費者団体連合会共催　「外国ルーツ青少年を『人財』として捉えなおす」第 1 回キックオフ勉強会（2021 年 10 月 19 日）

住友商事株式会社　社員参加型の社会貢献活動プログラム「100SEED」との連携事業「100SEED 多文化共生ウェビナー：『ともに生きる』とは―私たちが気づいていない『心の壁』について考える―」（2022 年 3 月 3 日）